

## リサイクル、環境、教育・研究に関する特別講演会のお知らせ

2007年8月27日(月)北大工学部 B31 教室、14:00-17:00

講師: 中部大学総合工学研究所教授 武田邦彦氏

共催 北海道大学工学研究科岩盤力学研究室  
北海道大学 21 世紀 COE プログラム「流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム」  
後援 資源素材学会北海道支部  
協賛 資源循環システムコース・廃棄物学会北海道支部



### プログラム

1400-1500 リサイクル編

1500-1600 環境編

1600-1700 教育・研究編

\*長時間に亘りますので、各編の間に短い休憩を入れる予定です。多少時間は前後するかもしれませんが、興味のある部分だけを聴講することも可能です。

1730-1900 武田先生との交流会

\*A101 教室、参加費 2000 円、アルコール、ソフトドリンク、オードブルを用意します。

武田先生のご専門は(多分)難燃性プラチックの開発なのですが、(特に官製)リサイクルに表立って反対し、また、地球が温暖化しているとは限らないし、温暖化しても海水面は上昇しなく特に不都合もない、海水面が上昇したとしても地球のこれまでの海水位に較べて特に異常ではない、温暖化しているとしてもその原因が CO<sub>2</sub> とは限らない、CO<sub>2</sub> がその原因だとしても京都議定書では温暖化は阻止できないという意見を述べておられます。京都議定書にアメリカが調印していない理由も明快に説明されています。

ダイオキシンの毒性が強くないことが実験結果で示されているにも関わらず、世間ではダイオキシンが猛毒だと信じられていること、チェルノブイリは原子爆弾の原料を製造するための発電所だったからあんな事故が起きたのであって、日本の原子力発電方式ではあのような事故は起こりえないこと、その他 DDT の毒性、水俣病の原因等、日本の世間では常識とされているような色々なことに、論理的に疑問を投げかけておられます。

教育・研究についても独自の視点から、TA に教育をさせるな、「有望な」研究には金を出さな、講義を休んだ学生は国民に金を払うべきだなどの意見を発表しておられます。

また、「物事を正しく判断するためには本質的ではない細かいことをあまり追求しないことである。ましてそのことを「雑だ」とか「いい加減だ」といっていると本質を見誤る。世界は刻々と変わり、ほとんどの数字は「おおよそ」しか判らず、「おおよそ」の方が真実に近いことも多い。」「この世に「よかれ」と思うことで本当に「良い」というものは無いように思える。1 時間だけ良いことは 1 年後には悪くなるし、1 年だけ良いものは一生を考えると害になる。また一人の人の人生にとって良いことはその民族を滅ぼすことになり、そしてそれが最終的には種を絶滅させる。」等の意見も、私にとって非常に新鮮に感じられました。

私は、武田先生の[ホームページ](#)を見て世間で常識とされているものとは全く違う意見に驚き、いくつかに納得し、いくつかはよく理解できず、いくつかに疑問があり、一度直接本人にお聞きしたいと考え講演会を企画した次第です。

リサイクル・環境を大切に考え懸命に学び研究している学生・教職員のみならず、工学教育・研究に携わる全ての方、さらには、地球で生きている全ての方にぜひ参加していただきたいと考えております。

(主催者代表: 藤井義明)

\*問い合わせ・申し込みは所属、氏名、交流会出欠を明記して [fujii@rock.eng.hokudai.ac.jp](mailto:fujii@rock.eng.hokudai.ac.jp)(藤井)までお願いします。